

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

花を植える事業で
交流を図りながら
コミュニティの再生へ
大槌商工会女性部(岩手県)



太平洋に面した岩手県沿岸の真ん中に位置する大槌町は、山と海に囲まれた小さなまちです。まちには大きな二つの川があり、豊かな湧き水が人だけではなく生き物たちをも優しく癒やします。

東日本大震災で女性部員21人の尊い命が失われ、活動の再開には傷ついた部員の心をいたわる活動を丁寧に見つけていく必要がありました。

震災後、深刻な課題の一つとなった

のが新たなコミュニティの構築でした。私たち女性部でも、地元商工会員としてコミュニティの一助となるような活動を意識しなくてはいけないと強く決意することになります。

悲しみと絶望に包まれたまちだからこそ必要だったのが、「花を植える」という活動でした。作業の日、仮設商店街に部員が久しぶりに集まったあの光景とうれしそうな笑顔は、今でも忘れることができません。

ネクタイを再利用した
トンボのブローチで
つなぐ絆の輪
嘉島町商工会女性部(熊本県)



ブローチ製作に取り組む女性部員

あの日から13年。

花を植える事業「コミュニティ花いっぱい運動」は、商工会青年部と漁協女性部との共催で、役場や自治会などの協力もいただきながら事業を進めています。

大槌駅前での作業当日は、天気予報の話から始まり、作業終了後も何気ない会話が続きます。それがこの活動



の目標でもありません。足が痛くても腰

が痛くても大丈夫。駅の待合室やベンチから花や作業の様子をニコニコ見ていただけることが何よりうれしいシーンなのです。

近年、全国各地で大災害が起き、被災地のニュースを見るたびに心が痛みます。岩手より精一杯のエネルギーを込めて、活動紹介とさせていただきます。



上/事業に参加した地域の各団体のメンバーと 下、左/交流を深めながら春はベゴニア、秋にはパンジーを植栽

嘉島町は、熊本県の中央部に位置し、近年住宅地も拡張され、工業団地も点在しています。

嘉島町商工会女性部は14人と少ない人数ですが、熊本弁で『できるときにできるしこ』をモットーに和気あいあいと事業に取り組んでいます。毎年恒例の「かしま水の郷まつり」では、手づくりの唐揚げを販売し、大変味がいいと評判になるほどです。そしてトンボの形のプローチ製作も、30年以上続く女性部の中心事業です。

トンボは後退せず前にしか進まないため、別名「勝ち虫」と呼ばれ、大変縁起のいいものとされています。ここで、県内各地から使われなくなったネクタイを寄付していただき、それを解いて一つひとつ手づくりで製作しています。できあがったものは町内の神社で祈願してもらい、毎年町内の中学3



上/プローチの寄贈の様子 右/「かしま水の郷まつり」では唐揚げを販売



年生に受験のお守りとして、寄贈しています。

また、東日本大震災や、2020年7月に熊本県を中心に発生した豪雨災害の際には、被災地へ復興を祈願し、「絆トンボ」として寄贈させていただきました。2024年も、能登半島地震の復興を祈願して石川県へ寄贈する準備を進めています。

このような長年にわたる活動のなかで、嘉島町商工会女性部の「トンボ」は全国に広まりつつあります。ネクタイを寄付していただいた方々との輪、それがトンボのプローチとなって支援・応援の輪へと広がり、徐々に大きくなり、「絆の輪」となっていることを、女性部員みんなが実感しているところです。この「輪」をこれからも途切れさせぬよう、部員一丸となって地域振興事業に取り組みでいきたいと思っています。